

教室コンサートの実施報告及びアンケート調査にみるその成果について

加納 暁子

I はじめに

長崎大学教育学部は平成 17 年に 130 周年を迎え、その記念事業の一つとして「教室コンサート&音楽講習会」を実施した。教室コンサートでは、音楽講座の教員、及び学生が長崎県下の小、中学校を訪問しコンサートを開催し、音楽講習会では訪問先の学校の要望に応じて、吹奏楽や合唱の指導を行った。本論では、教室コンサートの実施内容の報告、及び各コンサート時に実施したアンケートの結果から、教室コンサートの成果と今後の課題について考察する。

II 実施状況

教室コンサートは 4 月に長崎県教育委員会を通して県内の小、中学校に呼びかけたところ、13 校から申し込みがあり、地域的なバランスを考慮しながら 6 校を選び訪問した。コンサート実施校を以下の表に示す。

表 1 長崎大学教育学部創立 130 周年記念事業「教室コンサート&音楽講習会」実施校

	学校名	日時	対象者
1	佐世保市立相浦小学校高島分校	平成 17 年 8 月 19 日午後 2 時	全校児童、教員、保護者 (40 名)
2	諫早市立有喜小学校	平成 17 年 10 月 4 日午後 2 時 10 分	全校児童、教員 (303 名)
3	長崎市立山里中学校	平成 17 年 10 月 5 日午後 2 時	全校生徒、教員 (750 名)
4	佐世保市立日宇小学校	平成 17 年 10 月 25 日午後 2 時 15 分	全校児童、教員、保護者 (550 名)
5	対馬市立佐須中学校	平成 17 年 11 月 10 日午前 10 時 30 分	全校生徒、教員、保護者 (100 名)
6	対馬市立豆酏中学校	平成 17 年 11 月 10 日午後 2 時	全校生徒、教員、保護者 (60 名)

次に、各学校で実施したプログラムの内容と参加教員、参加学生数を以下の表に示す。なお、プログラムを構成する際、演奏者編成で留意した点として、①弦楽器、管楽器、声楽、ピアノをバランスよく配置すること、②教員と学生が必ず演奏メンバーに加わること、③実施校からの要望を取り入れながら、金管バンド、ブラスバンド、コーラスなどのワークショップを適宜入れることとした。また、曲目構成で留意した点として、①楽器紹介をかねて、各楽器の特徴が分かるような曲を入れる、②子どもたちがよく知っていて、気楽に楽しめる曲を入れる、③事前にアレンジした校歌を、出演者全員でアンサンブル伴奏する、④リズム遊びやコーラスなど、より多くの生徒が参加できるプログラムを入れる、⑤季節感の

ある曲を入れる、⑥教科書に登場する曲、クラシックの名曲、アニメの曲、テレビでのヒット曲を織り交ぜてプログラムを組むこととした。

表2 教室コンサートのプログラムの内容

	学校名	プログラム	参加教員・学生
1	佐世保市立 相浦小学校 高島分校	1. フルートの音色を聴いてみよう 《メヌエット》(ビゼー作曲) 2. ヴァイオリンにはいろいろな弾き方があるよ 《ツイゴイネルワイゼン》(サラサーテ作曲) 3. みんなも指揮者になってみよう 《ハンガリアンダンス No.5》(ブラームス作曲) 4. ピアノの響きを感じ取ろう 《ソナチネ》(ラヴェル作曲) 5. トランペットの音色を楽しもう 《トランペット吹きの休日》(アンダーソン作曲) 他 6. クラシックとポップ/バラはどんな違いがあるかな? 《ノクターン》作品9-2 (ショパン作曲) 7. ポップスの作品から 《月光花》(ブラックジャックより)、《愛し君へ》(森山直太郎) 8. みんながよく知っているスタジオジブリ作品から 《風の通り道》(となりのトトロより) 他 9. みんなで歌おう 《高島分校校歌》 ワークショッププログラム ①楽器の扱い方の基本、②リズムで遊ぼう! パーカッション講座入門編、③三上先生のアンサンブルクリニック	参加教員 3名 参加学生 4名
2	諫早市立有 喜小学校	1. オープニング 《紅葉》 2. フルートの音色を聴いてみよう 《メヌエット》(ビゼー作曲) 3. ミュージカルから1曲 「キャッツ」より《メモリー》 4. ピアノで聴くスタジオジブリメドレー 5. テレビのヒット曲から 《デスペラード》(イーグルス) 6. リズムで遊ぼう 7. リリオン 鳥さしパバゲーノ登場! オペラ《魔笛》より(モーツァルト作曲) 他 8. アンコール曲 「ハウルの動く城」より《世界の約束》	参加教員 2名 参加学生 5名
3	長崎市立山 里中学校	クラシックの作品から 1. 《ノットウルノ》(グリーグ作曲) 2. 《チャールダッシュ》(モンティ作曲) 3. 《愛の挨拶》(エルガー作曲) 4. 《オ・ソレ・ミオ》「私の太陽よ」(カプア作曲) 他 ポップスの作品によるアンサンブルメドレー 5. 《アンダーザ・シー》(リトル・マーメイドより)(A.メンケン作曲) 6. 《アラジンのテーマ》(アラジンより)(A.メンケン作曲) 7. 《魔女の宅急便》(魔女の宅急便より)(久石譲作曲) 8. 《人生のメリーゴーランド》(ハウルの動く城より)(久石譲作曲)	参加教員 4名 参加学生 13名

		<p>9. 《デスペラード》(D.ヘンリー作曲)</p> <p>10. 《情熱大陸》(葉加瀬太郎作曲)</p> <p>コンサート終了後合唱指導</p>	
4	佐世保市立 日字小学校	<p>1. ヴァイオリンの小品より 《愛の喜び》(クライスラー作曲)、《ハンガリアンダンス No. 5》(ブラームス作曲)、 《思い出》(ドルドラ作曲)、《チャールダッシュ》(モンティ作曲)</p> <p>2. お話と音楽 《1センチジャーニー》(寺山修司作)</p> <p>3. ピアノソロ 《エリーゼのために》(ベートーヴェン作曲)</p> <p>4. 声楽とアンサンブル 《もみじ》</p> <p>5. 全校合唱 《さんぼ》</p> <p>6. アンサンブル 《美女と野獣》(アラン・メンケン作曲)</p> <p>7. 楽器の音を聴いてみよう 《ジッパディドゥダー》《狼なんか怖くない》(ディズニー)</p> <p>8. 声楽二重唱 《ホール・ニュー・ワールド》「アラジン」より</p> <p>9. アンサンブル 《やさしさに包まれたなら》「魔女の宅急便」より</p> <p>10. アンコール 《人生のメリーゴーランド》「ハウルの動く城」より</p>	<p>参加教員 2名</p> <p>参加学生 8名</p> <p>ゲスト 1名</p>
5	対馬市立佐 須中学校	<p>1. オープニングアンサンブル 《トルコ行進曲》(ベートーヴェン作曲)</p> <p>2. ヴァイオリンソロ 《愛の喜び》(クライスラー作曲)、《ユーモレスク》 (ドヴォルザーク作曲)、《チャールダッシュ》(モンティ作曲)</p> <p>3. 管楽器の仲間たち～三上先生による楽器入門講座～ フルートソロ 《赤とんぼ変奏曲》、クラリネットソロ 《Tea for Two》 ファゴットソロ 《白鳥》、ホルンソロ 《山田耕筰メドレー》</p> <p>4. アンサンブルの伴奏で 《校歌》《時の旅人》</p> <p>5. 音楽クイズで遊ぼう! 《四季当てゲーム(ヴィヴァルディの四季から)》 《ブエノスアイレスの四季(ピアソラ作曲)》と比べてみよう》</p> <p>6. アンサンブルで楽しもう 《もみじ》《荒城の月》</p> <p>7. スタジオジブリから 《君をのせて》</p> <p>8. フィナーレ 《すべての山に登れ》(サウンド・オブ・ミュージックより)</p>	<p>参加教員 3名</p> <p>参加学生 4名</p>
6	対馬市立豆 殿中学校	<p>1. オープニングアンサンブル 《トルコ行進曲》(ベートーヴェン作曲)</p> <p>2. ヴァイオリンソロ 《愛の喜び》(クライスラー作曲)、《ユーモレスク》 (ドヴォルザーク作曲)、《チャールダッシュ》(モンティ作曲)</p> <p>3. 管楽器の仲間たち～三上先生による楽器入門講座～ フルートソロ 《赤とんぼ変奏曲》、クラリネットソロ 《Tea for Two》 ファゴットソロ 《白鳥》、ホルンソロ 《山田耕筰メドレー》</p> <p>4. アンサンブルの伴奏で 《校歌》《時の旅人》</p> <p>5. 音楽クイズで遊ぼう! 《四季当てゲーム(ヴィヴァルディの四季か</p>	<p>参加教員 3名</p> <p>参加学生 4名</p>

	ら)》《ブエノスアイレスの四季 (ピアソラ作曲) と比べてみよう》	
	6. アンサンブルで楽しもう 《もみじ》《荒城の月》	
	7. スタジオジブリから 《スタジオジブリメドレー》《君をのせて》	
	8. フィナーレ 《すべての山に登れ》(サウンド・オブ・ミュージックより)	

教室コンサート実施校のプログラムの内容を概観すると、概ね、傾向として以下のような5つの観点からまとめることができる。

- ①各楽器の独奏（独唱を含む）
- ②アンサンブル
- ③ポピュラー
- ④児童、生徒が演奏に参加できるもの
- ⑤ワークショップによる体験学習

次項では、各観点からプログラムの内容をより詳細に説明する。

Ⅲ プログラムの詳細な内容

本項では前項で提示した5つの観点から、準備の段階、具体的な楽曲、コンサートの模様といった実施状況を交えながら、プログラムの内容を詳細に説明する。

①各楽器の独奏

教室コンサートの中で扱った独奏楽器は、ヴァイオリン、ピアノ、フルート、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペットである。ヴァイオリンは小、中学生でも比較的知っている《ツイゴイネルワイゼン》や《愛の喜び》を取り上げ、ヴァイオリン特有の艶のある音色や様々な技巧（弦を指ではじくピッツィカートなど）を聴くことができるように配慮した。また、ピアノでは《エリーゼのために》といった小学生に非常に人気の高い曲から、ラヴェル作曲《ソナチネ》のように、印象派独特の淡い響きを感じ取る作品を選んだ。特に《ソナチネ》を分校で演奏した際、児童たちが初めて聴く印象派の響きに興味を示し、ピアノの鍵盤の傍で聴き入る光景が見られた。管楽器は楽器の説明を交えながらその楽器の特性が顕著に聴き取れる作品を選び、演奏した。例えば、フルートではビゼー作曲《メヌエット》のように、フルートの高い音が響き、装飾的な技巧が含まれるもの、ファゴットではサンサーンス作曲《白鳥》のように、白鳥が湖をゆったり泳ぐ姿をファゴットの渋い低音によってイメージできるように配慮した。独唱では《紅葉》のように季節に合った曲を選んだり、モーツァルトのオペラ《魔笛》の中のバリトンによる独唱を、パンパイプの演奏を交えながら歌うことによって、児童、生徒に本格的なクラシックの演奏をより親しみを持って聴けるように工夫した。

②アンサンブル

アンサンブルの形態として、弦楽器、管楽器、打楽器を適宜、組み合わせながら、3人ほどの小編成のアンサンブルから出演者全員のアンサンブルまで多様な構成で行った。特にコンサートの最後はフィナーレとして全員で演奏する機会を設けた。また、器楽アンサンブルに声楽が加わったり、二重唱などもプログラムの中に取り入れた。

③ポピュラー

児童、生徒にとって、聴き慣れた音楽がコンサートで演奏されることも喜びの一つである。ジャンルとして最も人気のあるものは、宮崎駿氏によるスタジオジブリ作品（《ハウルの動く城》、《となりのトトロ》など）の中で用いられている主題歌などである。次いで、ディズニー作品（《アラジン》、《美女と野獣》）や現在テレビで放送されているアニメ番組（ブラック・ジャックなど）の主題歌をコンサートの中に積極的に取り入れることによって、クラシックの演奏のみに偏らず、堅苦しくないコンサートを目指した。

④児童、生徒が演奏に参加できるもの

児童、生徒にとって、コンサートを一方的に受身になって聴くより、なるべく演奏に積極的に関わっていく場面を設けることも必要である。そこで、曲に合わせて手拍子を叩く、音楽クイズ、全校合唱といったプログラムを企画した。曲に合わせて手拍子を叩くコーナーでは、ブラームス作曲《ハンガリアンダンス No.5》を用いた。この曲は緩急の差や急激なテンポの変化が多く、ヴァイオリンの演奏に合わせて手拍子を叩くことによって、予測の付かないテンポの変化に興じることができた。音楽クイズでは、ヴィヴァルディ作曲《「和声と創意の試み」第一集「四季」》の中から、「春」「夏」「秋」「冬」を部分的に演奏し、どの季節かを当てさせるものである。これは、季節が当てられることを目指すのではなく、音楽による季節感の表現を感じ取ることを目的とした。また、全校合唱では、各学校の校歌をあらかじめアンサンブルに編曲し、当日、児童、生徒と出演者が共演するものである。学校によっては全校合唱に出演者が演奏だけでなく、振り付けを考え一緒に踊ることによって好評を得た。これらの活動によって、児童、生徒と出演者との間に一体感が生まれ、より親しみや温かみのあるコンサートを創り上げていくことが可能となった。

⑤ワークショップによる体験学習

ワークショップでは事前に訪問校の要望を聞いた上で、吹奏楽や合唱の指導、楽器の扱い方の指導、打楽器によるリズム遊びなどを行った。特に、離島では専

門の指導者による吹奏楽のレッスンなどを受ける機会もないため、児童、生徒にとってよい経験になったようである。また、様々な打楽器を用いたリズム遊びでは、児童、生徒はこれまでに経験したことのない打楽器の奏法やリズムなどを大学生から教わり、即興で合奏活動を行った。

IV アンケート¹⁾の結果と考察

本項では、児童、生徒から得たアンケートの結果を5つの観点から分類し、教室コンサートの成果について析出していく。

表3 教室コンサートに対するアンケート結果

観点	アンケート結果
①各楽器の独奏	ヴァイオリンはすごく力強いところもあったけれど、ゆっくりしたところもあって、すごくきれいでした。(日宇小5年生) 指の動きが速くてすごかったし、きれいな音だった。(ヴァイオリンについて)(佐須中3年生) 心の中まで聴こえたような気がした。(ヴァイオリンについて)(佐須中3年生) 音で気持ちを表現しているんだと思いました。(ヴァイオリンについて)(佐須中3年生) フルートがきれいな音でびっくりした。(佐須中2年生) クラリネットは豪華な作りだけれど、音は昔のような音だと思いました。(佐須中2年生) ファゴットという楽器を初めて見ました。すごく大きいのでびっくりしました。(佐須中1年生) トランペットの音色がものすごくきれいで大きな音でなんか楽しかった。(高島分校5年生) 私もピアノを習っているけれど、あんなふうにかっこよく弾けたらいいなあと思います。(日宇小5年生) マイクを使わずにあんな声が出るとはすごい発見だった。(バリトン独唱について)(有喜小2年生)
②アンサンブル	最後の曲は全部の楽器がひとつになったようでした。(日宇小5年生) フルートとホルンとファゴットの音が重なって楽しかった。(日宇小6年生) アラジンでは2人の声がきれいに重なっていたところが素敵で、本当の世界に飛び込まれそうで、楽しかったです。(日宇小6年生) すごい迫力だった。(佐須中1年生)
③ポピュラー	知っている曲があって楽しかった。(ジブリメドレーを聴いて)(有喜小1年生) 低学年も高学年も知っている歌や曲があって、分からないのじゃなかったから楽しかった。(日宇小6年生) 知っている曲だったので鳥肌がたつほど感動した。(ジブリ作品を聴いて)(佐須中3年生)
④児童、生徒が演奏に参加できるもの	リズムよく手を叩いたところが楽しかった。(高島分校5年生) 何個か違っていたけれど、とても楽しかったです。(四季当てゲームについて)(佐須中1年生) 音で四季を当てるのは難しかったけれど、よく聴くとその季節の感じが出ていると思った。(佐須中2年生) ちょっとしたヴァイオリンの音の違いで、四季の表し方も変わるんだと思った。(佐須中3年生) 今までピアノだったけれど、楽器が増えて今までのと違う感じがした。声が大きくなった。(佐須中2年生)
⑤ワークショップによる体験学習	一人で練習したらできなかったけれど、大学の先生と一緒に練習をしたらできるようになったから嬉しいです。(高島分校3年生) リズムができて楽しかった。(有喜小1年生)

	<p>いろいろな動きがあって面白かった。音楽にのることができたような気がする。(有喜小4年生)</p> <p>プラスで今やっている曲にも、同じリズムがあって楽しかった。(有喜小5年生)</p> <p>違うリズムなのに、みんなで一つのものができてよかった。(有喜小6年生)</p>
--	---

①各楽器の独奏ではまず児童、生徒は各楽器の音色を聴き取っている。その上で、楽器の形状、楽曲の強弱、速度、楽器の演奏法などを聴き取り、そのことについて「びっくりした」「なんか楽しかった」という感情を率直に表している。また、中学校3年生にもなると、音色から「心の中まで聴こえたような気がした」「音で気持ちを表現している」といった音楽の真髄を感じ取る生徒もおり、この教室コンサートで、児童、生徒は音楽によって心を揺り動かされる体験を少なからず得ることができたといえる。学校にあるピアノや打楽器以外の楽器は、初めて見る、聴く児童、生徒が大半であり、楽器の音を生で間近で聴くことのできる教室コンサートによって、聴覚や視覚をフルに働かせながら音楽を感じ取るという貴重な経験を得ることができるといえる。

②アンサンブルに関して、主に小編成のアンサンブルは各楽器の独奏の後、出演者全員によるアンサンブルは演奏会のフィナーレとしてプログラムの最後になるように構成した。小編成のアンサンブルでは楽器紹介も兼ねた独奏により、各楽器の音色の特性を聴き取ったのち、それらの楽器が多様な形式によってアンサンブルを構成することによって、ソロのときでは得られない、音色の重なりやハーモニーの美しさを感じ取ることができたようである。また、最後に出演者全員によるアンサンブルを演奏することによって、オーケストラのようなダイナミックな響きや迫力を伝えることができた。

③ポピュラーの作品については、小学1年生から中学3年生まで、ほとんど「知っている曲だから楽しんで聴けた」という意見が多かった。クラシックの作品を鑑賞することによって、楽器の音色や奏法などに親しむことも意義があるが、すべてクラシックの作品のみでプログラムが構成されると、児童、生徒は演奏会を聴かされている感覚に陥ってしまう。そこで、変化をつけるためにも、現在の小、中学生にもっとも親しまれているスタジオジブリやディズニーの作品、あるいはテレビなどで放映されているアニメの主題歌を演奏することによって、児童、生徒はさらに目を輝かせながら演奏に聴き入る光景が見られた。ポピュラーの作品はアンサンブルによって演奏したり、全校合唱という形式で振り付けを伴いながら一緒に歌うという様々な方法を取り入れた。児童、生徒にとって普段の生活の中でCDやテレビによって聴き慣れている音楽が、生演奏という異なった形式で演奏されたり、コンサートの中で共に演奏できるということは、大変楽しく、また忘れ難い経験となったようである。

④児童、生徒が演奏に参加できるものとして、小学校ではブラームス作曲《ハ

ンガリアンダンス No.5》のヴァイオリン演奏に合わせて手拍子をする活動、また中学校では音楽クイズとしてヴィヴァルディ作曲《「和声と創意の試み」第一集「四季」》の中から「春」「夏」「秋」「冬」の四季当てゲームを行った。手拍子の活動では、テンポがめまぐるしく変化する曲であるため、曲に手拍子を合わせていく楽しさ、また音楽の「間」を待ちきれず手を叩いてしまう面白さを児童は感じ取っていたようである。また、日宇小学校ではこの曲の後のテンポ感のよい曲についても、児童は自然に演奏に手拍子をつけて合わせていく光景が見られた。曲の速度変化を口頭で説明しても実感はわきにくい、手拍子をして演奏と一体となり能動的に参加することによって、体全体で音楽の楽しさを感じ取ることができるといえる。また四季当てゲームでは、まず何も曲の説明をせず、順不同で「四季」の演奏を行い、それぞれ感じた季節に挙手をさせた。「春」は小鳥が春の訪れを喜ぶ場面、「夏」は夏の嵐、「秋」は狩りの様子、「冬」は温かい部屋の窓から雨が降る様子を眺めている情景の部分を演奏した。アンケートの結果を見ると、中学校1年生ではクイズで幾つ正解したかに興味、関心があるようだが、中学校2、3年生になると、音色の変化から四季の情景を感じ取ろうとする生徒が見られ、音楽の表現するイメージを感じ取るというもっとも芸術の核心に迫る経験をこの教室コンサートでは中学生と演奏者が共有することができた。

また、校歌に関しても普段のピアノ伴奏から、アンサンブル伴奏によってオーケストラのようなサウンドをバックに歌うことにより、いつもとは違う迫力を生徒は感じ、比較的のびのびと歌っていた。児童、生徒が歌い慣れた曲に演奏者が臨機応変に参加し、いつもとは違う音楽経験を創り出すことも教室コンサートならではの試みといえる。

⑤ワークショップによる体験学習は、演奏会終了後、大学の教員や学生がブラスバンドやコーラスを指導したり、打楽器などを用いてリズム遊びを行った。佐世保市立相浦小学校高島分校では、児童によって金管バンドが結成されていたが専門的な指導者がいないだけでなく、楽器の扱い方もよく分からない状態であった。しかし、アンケート結果を見て分かるように、1時間の指導と練習で児童の演奏は良くなり、特にできなかったものができるようになった喜びというものは、楽器を演奏する上で大切な経験を得ることができたといえる。また、リズム遊びは小規模校の場合は打楽器で、大規模校の場合は手拍子や足踏みで手軽に行える音楽遊びである。学年毎にリズムを決め、ソロで演奏したり、合奏、カノン形式、合いの手、強弱の変化というように様々な要素を組み合わせることによって、一つの曲にまとめることができる。演奏会を聴き終えて、感じ取ったこと、あるいは感動した経験を、即、児童、生徒が今度は主役となって、音楽活動を行うことによって、教室コンサートを鑑賞することで得られた感動を再経験できることも有意義な試みであるといえる。

V まとめと今後の課題

以上、教室コンサートについて5つの観点からアンケートの結果に対する概観と考察を行った。その結果、①各楽器の独奏では楽器の音色や特性を生演奏を通して聴き取れること、②アンサンブルではハーモニーの美しさやダイナミックな響きを感じ取れること、③ポピュラーの作品では児童、生徒のよく知っている曲を演奏することによって音楽に対する親しみや楽しさを味わうこと、④児童、生徒が演奏に参加できるものとして、手拍子や音楽クイズを取り入れることによって、コンサートに能動的に関わり、演奏と一体になる感覚を味わったり、音楽が表現する微細なイメージについて感じ取ったりすることができること、⑤ワークショップによる体験学習では、ブラスバンドの指導やリズム遊びを通して大学の教員と学生、児童、生徒が共に音楽活動を行うことによって、演奏技能の向上による達成感などを味わうといった点において、成果が見られたといえる。従って、教室コンサートのプログラムの傾向として、この5つの観点を取り入れ組み合わせた形式が有効であると考えられる。

また、教室コンサートに参加した大学生は、「子どもたちと一緒に教室コンサートを楽しむことができ、一体感があってよかった。」「子どもたちと同じ目線で音楽を楽しめるコンサートにしたい」「子どもたちがうれしそうに聴いてくれるので演奏する楽しさを学んだ」といった感想をあげている。また、学生の音楽活動に対する取り組み方も変化し、子どもたちの前で良い演奏ができるように練習時間が増えただけでなく、普段から子どもたちの喜ぶような曲を積極的に探し、レパートリーを広げたいと考えるようになった。従って、教室コンサートは小学生や中学生に普段の音楽の授業では味わえないような貴重な感動の経験を与えるだけでなく、教育学部の学生にとっても、音楽を通じた子どもたちとの接し方や、音楽を伝えるということはどういうことなのかといった点を学ぶ機会を与えるものであり、今後も音楽科の教育活動として続けていくことが必要である。

今後の課題としては、さらに多くの小、中学校で教室コンサートを開催し、一人でも多くの子どもたちに音楽の素晴らしさや感動を伝えていくこと、そしてプログラムの内容をさらに吟味し、工夫を凝らした音楽クイズやより児童、生徒の心に響くような選曲や演奏を心がけることがあげられる。また、今回のアンケートで中学1年生と中学3年生との間には音楽について感じ取る力や深さに差が見られた。今後、さらに教室コンサートを実施し、得られたデータを分析することによって、小学生、中学生、高校生という発達の段階において、音楽に対する感受性や嗜好、表現性など、どのような発達の変化が見られるのかについても研究を進めていきたい。

註 1

アンケートは、①どのプログラムが楽しかったか、②その楽しかった理由、③今日のコンサートで発見したことの三項目について行った。質問1は学年によるプログラム内容の嗜好差が明らかになる。質問2で楽しかった理由を記述させたのは、「なんとなく」といった曖昧な表現ではなく、音楽や演奏のどのような部分が楽しかったのかを把握するためである。また質問3は、コンサートの感想をただ漠然と聞くのではなく、児童、生徒の心の中に起きた感動や発見を把握するためである。今後、このアンケートの調査方法や質問事項についても検討を深めたい。



図 1 佐世保市立相浦小学校高島分校
ワークショップ 金管バンド指導



図 2 佐世保市立相浦小学校高島分校
ワークショップ リズム遊び

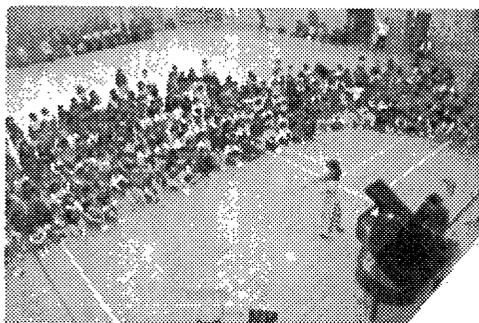


図 3 佐世保市立日宇小学校
ヴァイオリンの独奏



図 4 対馬市立豆酩中学校
アンサンブル